

(財)札幌市環境事業公社 情報誌 第5号

アンパス

un pas

フランス語で「一歩」の造語。一歩一歩お客様との絆を深め、
ともに環境への理解を深めるという意味を込めました。



『フリージア』 小出 匡 作

「アンパス」第5号の発刊です。

今回は、「北海道振興株式会社」様のごみ分別の取組み紹介・札幌市ごみ資源化工場の施設紹介・モンゴルのごみ処理事情となっております。

本誌に対する皆様のご意見が御座いましたらドシドシお寄せ下さい。

また、自社の紹介・PRなど、本誌に掲載希望の記事が御座いましたら何なりとご連絡下さい。

お客様紹介

「ごみ分別の実施について」
「グリーンビルのから」
「クリーンビルを目指す」

北海道振興株式会社

社長 毛利 稔



当社はスキノ地区で飲食店テナントビル9棟（グリーンビル・サイバーシティビル）を経営している。テナントビルから出るゴミの量は年間約8千m³で、スキノ全体の約23%に相当する。これまでに、生ごみと資源化できるペットボトルなどごちゃ混ぜとなっていた状況であったため、分別・リサイクルの推進・ごみの散乱や悪臭対策などが課題であった。

今回は、当公社が事業系一般ごみ収集の契約をしているお客様の「ごみ分別」の取組みを紹介させていただきます。

また、事業系一般ごみの事で悩み・相談等がありましたら、何なりとご連絡下さい。当公社営業職員が懇切丁寧にアドバイスさせていただきます。

このため、当社では平成17年10月に「ごみ対策プロジェクトチーム」を組織、(財)札幌市環境事業公社のアドバイスも得ながら、3カ月間かけて、ごみ分別の実施についての協力依頼文書の配布・ごみ分別要領の作成・種類別ごみ袋の製作等検討を重ね、ようやく昨年1月からごみの分別をスタートさせた。ごみ分別化にあたり、ごみ庫の改修工事、分別容器、専用の袋、分別の表示などに約320万円の費用をかけた。

- 分別は再資源化の観点から、
- 一般ごみ(生ごみ)
- ビン・缶・ペットボトル、

○発泡スチロールの3種類で実施している。その他、ダンボールについても別途古紙業者に引き取ってもらっている。



分別にあたって一番苦労したことは、約400店のテナントへの周知徹底とその協力であった。ご協力依頼文書を2回配布したほか、テナントとの新春交歓会の挨拶の中で、私は「限りある資源を大切に」そして「循環型社会の構築に向けて」の思いから、ごみ分別の必要性を訴えた。

1年間の分別効果は別表のとおりで、一般ごみ(生ごみ)は18%減量化し、ごみ処理経費も減少しており、ごみステーション

がきれいになり、美観の向上につながった。また共用部分は汚さないという環境づくりにも効果があった。

まだまだ一般ごみの中に資源ごみが一緒に排出されていることもある。リバウンドしないように、今後ともテナントの皆さんの協力をお願いしている。

当社はこうしたごみ減量化・分別化を通して、グリーンビルからクリーンビルを目指すとともにエコクリンスキノが推進できればと期待している。

(別表)

| | ごみ排出量 (m ³) | 構成比 (%) | | |
|-----|-------------------------|------------|-------------|----------|
| | | 一般ごみ (生ごみ) | ビン・缶・ペットボトル | 発泡スチロール等 |
| 17年 | 8,074 | 100 | — | — |
| 18年 | 8,076 | 82 | 12 | 6 |

資源ごみリサイクル施設

札幌市ごみ資源化工場

札幌市北区の篠路清掃工場に隣接する札幌市ごみ資源化工場では、ごみとして排出された木くず・紙くず・廃プラスチックをリサイクルして固形燃料(RDF)を製造しています。この製品は、厚別区のみじ台団地の地域冷暖房を行っている熱源製造会社である北海道地域暖房株式会社へ売却し、燃料として再利用することで循環型社会の構築に貢献しています。資源化工場で使用する電気は、清掃工場でごみを焼却する際に作られる電気を利用して稼働しています。これもまたサーマルリサイクルです。



平成2年の資源化工場竣工当時は建設系廃材の大部分が可燃物・不燃物を分別しないまま埋立処理されていました。又、清掃工場では木くずや紙くずなど高カロリーのごみを燃焼させた場合、定格の焼却量が処理できず焼却能力の低下と焼却炉の損傷等による修繕費の増大が問題となっていました。そこで、事業系ごみの減量・リサイクルを図る目的で3年間の調査・研究を経て、現在では全国に数十箇所あるRDF製造施設の先駆けとして竣工に至りました。その結果埋立地や清掃工場の延命化、焼却炉修繕費の軽減、ごみの分別・リサイクルの推進等に寄与してきました。



製品は直径40mm、長さ100～150mmの円筒形で発熱量は4,000～4,500kcal/kg、ピーク時には年間28,000tの生産を行っていました。

ごみ資源化工場では、市内から発生する事業系ごみを受入対象にしています。ごみ処理手数料は埋立地140円/10kg、清掃工場130円/10kgに対し、ごみ資源化工場では90円/10kgになっていて、割安にすることで分別とリサイクルを推進し、原料の確保を図っています。工場は、土曜日や日曜・祝日も稼働し、そして1月1～3日を除く毎日7:00から22:00まで運転しています。

不適物として金属や布類・発火物等があり、これらはプラント設備のトラブルの原因になります。金属の摩擦熱や破砕機出口の詰まりによる原料の摩擦熱による発火が起ったり、製品への異物混入が発生しますので注意が必要です。

又、生ごみを固形燃料化している自治体もありますが、生ごみは発酵して自然発熱します。又、製品の発熱量が不安定で燃焼が難しいです。しかし、当工場が生産するRDFは、生ごみを使用していないので発酵や自然発火は決してすることのない、高品質で安全な固形燃料なのです。



工場主要諸元

- ・所在地：札幌市北区篠路町福移 153 番地
- ・延床面積：6,300m² 鉄骨 2 階建て
- ・建設費：26 億 4 千万円
- ・竣工：平成 2 年 3 月
- ・ごみ処理能力：200t/日（13 時間）
- ・固形燃料生産能力：140t/日

ウランバートル市(モンゴル国)のごみ処理

札幌市では、自治体職員協力交流事業のなかで平成13年度からモンゴル・ウランバートル市からのJICA研修員を受入れている。当社も協力しているところであり、そのウランバートル市のごみ処事情を紹介しよう。

13世紀、ユーラシア大陸の大部分を支配した大帝国を築き上げたチンギス・ハーンの国・モンゴル国。その国の首都がウランバートル市であり、人口100万人の大都市である。

昨年、モンゴル建国800年の記念の年であり、記念行事もあった。

同市は、1990年の民主化運動以降、急激な人口膨張により、草原や町にごみが散乱するようになってしまった。

ごみ収集は、各区にある整備公社で収集運搬し、事業者も一般家庭も月決めの有料である。



都市中心部の高層マンション(9階建て以上)のごみは、各階に設置されたダストシュートで1階のごみ庫に集められ、収集される。郊外には、ゲル地区と呼ばれるテント群が広がり、ここでは、戸別で収集され、ドラム缶で

排出する家庭も多いようだ。

ごみは、現在のところ、埋立処理のみであり、排出時に分別はされていない。



しかし、ペットボトルは、有価物として売却できるので、収集員が収集時に分別売却し、更にごみから有価物をあさる人々(ウェストピッカー)により集められ売却される。

売却先は、埋立地等の近くにあるコンテナの買取り所で、その先は、中国に売却されていく。

一昨年より、JICAが廃棄物調査を実施しており、新規の埋立地、紙やビニール類を分別し、資源化処理する等の計画が進められている。

市の担当部門の教育も急ピッチで実施されており、数年後には草原や町にごみが散乱することもなくなるだろう。

業務担当 長瀬 隆

平成19年3月発行

編集・発行／財団法人札幌市環境事業公社
札幌市中央区北1条東1丁目 サン経成ビル

<http://www.kankyou-sapporo.jp>

- 本誌に関するご意見、ご要望等
電話 219-2053 FAX 219-0882
- 事業系一般廃棄物の収集全般に関すること
電話 219-5353 FAX 219-0053